2019年3月期 決 算 説 明 会

2019年5月30日

JASDAQ: 3423



目 次

- I. 2019年3月期連結業績 および 2020年3月期連結業績予想
- Ⅱ. セグメントの状況
- Ⅲ. エスイーグループの今後の戦略

I. 2019年3月期連結業績 および 2020年3月期連結業績予想

グループ事業内容



セグメント	区分	主な事業内容・製品等	会社名	
	ケーブル製品分野	「アンカー」、「落橋防止装置」、「PC用ケーブル」、「外ケーブル」、 「斜材」、「控索」等のケーブル製品(付属品)の製造・販売 建設用機材のレンタル	(株)エスイー (株)コリアエスイー (株)アースデザインエンジニアリング	
建設用資機材の 製造・販売事業	鉄鋼製品分野	「KIT受圧板」、「変位制限装置」等 建設用鉄鋼製品の製造・販売 建設商材の販売	(株)エスイー エスイー鉄建株)	
	コンクリート製品分野	コンクリートニ次製品の製造・販売 ESCON材料、二次製品の製造・販売	(株)エスイー A&Kホンシュウ(株) (株)北都運輸	
建築金物分野 建築用資材の		「セパレーター」、「吊りボルト」等の建築用資材の製造・販売	A&Kホンシュウ(株)	
製造・販売事業	建築鉄骨分野	鉄骨工事および建築部材・建築耐震金物等の製造・販売	エスイー鉄建㈱	
建設コンサルタント事業	_	国内建設コンサルタント事業、海外での建設コンサルタントサー ビス	(株)アンジェロセック (有)日越建設コンサルタント(VJEC)	
補修•補強工事業	_	補修・補強工事 (橋梁構造物・トンネル等)の施工及び点検・調査業務	エスイーリペア(株) (株)ランドプラン	



(単位:百万円)

	2018年 3月期	2019年 3月期	増減 (増加率)	主な要因
売上高	20,197	22,412	+2,215 (+11.0%)	+1,180 コンクリート子会社を連結したことによる増加 +1,172 建築用資材での建築金物・鉄骨の販売増 +197 建設コンサルタントの設計業務収入の増加
営業利益	954	1,120	+166 (+17.4%)	+139 建設コンサルタントでの高利益率案件の完工等 +119 コンクリート子会社を連結したことによる増加 +62 建設用資機材でのケーブル・鉄鋼製品の増益 △125 大型鉄骨工事での製造工程での追加原価の発生等
経常利益	1,051	1,079	+27 (+2.6%)	△167 持分法による投資利益の増減
親会社株主に 帰属する 当期純利益	680	699	+19 (+2.9%)	

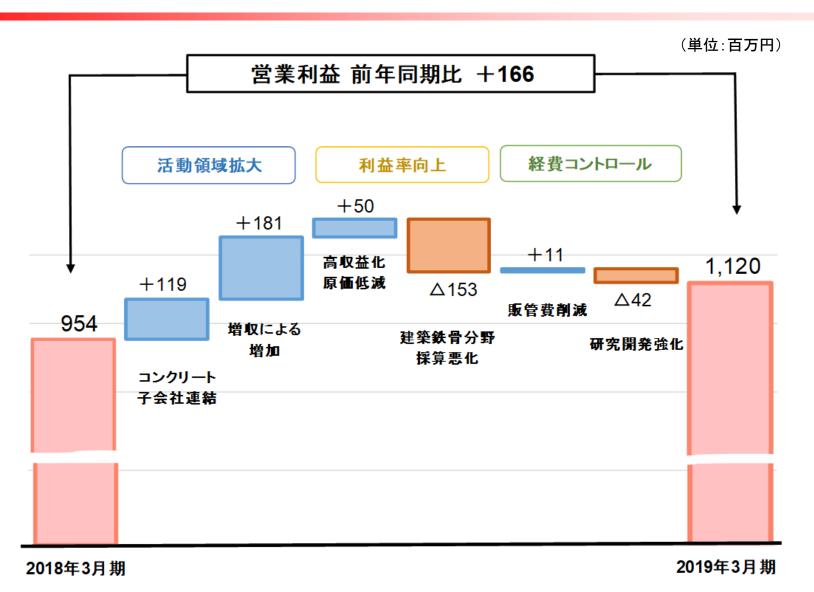


(単位:百万円)

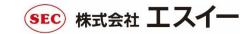
	2018年3月末	2019年3月末	増減額	主な増減要因
流動資産	14,589	15,195	+605	現金及び預金 △360 受取手形及び売掛金 +487
固定資産	7,936	7,897	△38	たな卸資産 +424
資産合計	22,525	23,093	+567	
流動負債	8,656	9,319	+663	支払手形及び買掛金 +934
固定負債	5,523	5,060	△463	借入金及び社債 △591
負債合計	14,180	14,380	+200	
純資産合計	8,345	8,712	+367	利益剰余金 +430
負債純資産合計	22,525	23,093	+567	
自己資本比率	37.0%	37.6%	+0.6%	
ROE	8.5%	8.2%	Δ0.3%	

営業利益差異分析(前年同期比)





セグメント別業績

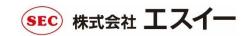


(単位:百万円)

	2018年3月期		2019年3月期			
	売上高	構成比	売上高	構成比	前	期比
	営業利益	利益率	営業利益	利益率		
建設用資機材の	8,676	42.9%	9,594	42.8%	917	10.6%
製造・販売	559	6.4%	739	7.7%	179	32.1%
建築用資材の 製造・販売	8.724	43.2%	9,896	44.2%	1,172	13.4%
	426	4.9%	291	2.9%	△134	△31.6%
2年記って、共立方へ、し	678	3.4%	875	3.9%	196	29.0%
建設コンサルタント	45	6.7%	184	21.0%	138	302.2%
++	2,117	10.5%	2,046	9.1%	△71	△3.4%
補修∙補強工事	255	12.1%	235	11.5%	Δ20	△8.0%
	20,197	100.0%	22,412	100.0%	2,215	11.0%
合 計	954	4.7%	1,120	5.0%	166	17.4%

[■]各事業の売上高はセグメント間の内部取引を除き、また営業利益の合計では内部取引および全社費用、のれんの償却額を控除した上、端数調整した数字を記載しております。

2020年3月期 連結業績予想



(単位:百万円)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 (予想)	前期比	
売上高	22,412	22,800	387	1.7%
営業利益	1,120	1,153	33	3.0%
経常利益	1,079	1,150	71	6.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	699	677	Δ22	Δ3.2%

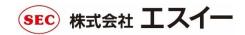
2020年3月期 期末配当金 1株当たり 10円 (予定)

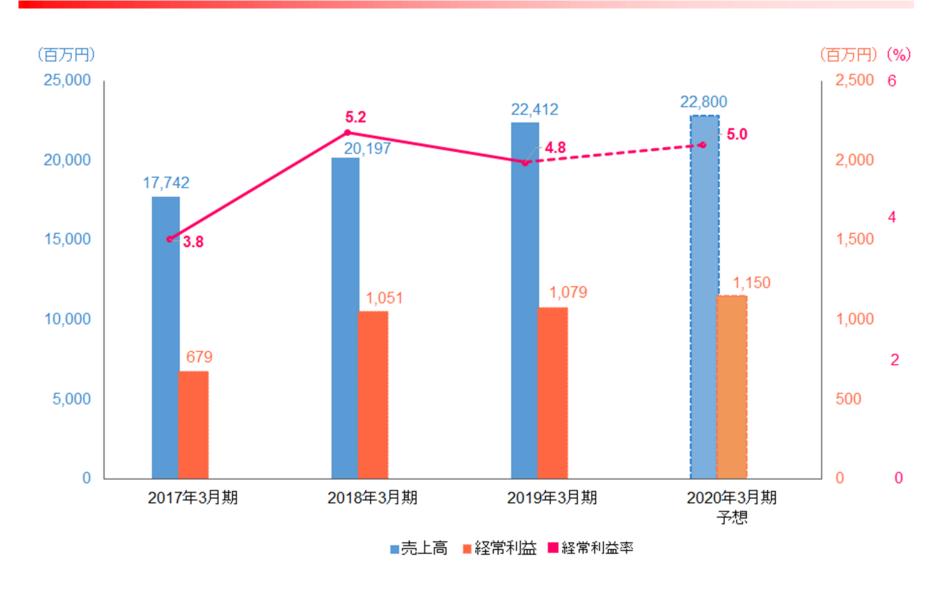
【ご参考:1株当たり当期純利益・配当金及び配当性向の推移(連結)】

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (予想)
1株当たり当期純利益(円)	22.75	23.40	22.66
1株当たり配当金(円)	18	10	10
配当性向(%)	39.6	42.7	44.1

(注)2018年3月期期末配当金の内訳: 普通配当16円00銭 50周年記念配当2円00銭 2018年3月期の『1株当たり当期純利益』は、2018年10月1日に実施した株式分割に基づき算出した理論値です。 2019年3月期配当金は、株式分割(1:2)を考慮した配当金額を記載しています。

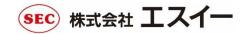
売上高•経常利益推移





II. セグメントの状況

セグメント別売上高・構成比





補修·補強工事業

20億46百万円 構成比 9.1%

建設用資機材の製造・販売事業

95億94百万円 構成比 42.8%

建設コンサルタント事業

8億75百万円 構成比 3.9%



グループ合計 <u>売上 224億12百万円</u>

2019年3月期実績

経常利益 10.79億円





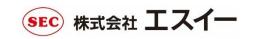
建築用資材の製造・販売事業

98億96百万円 構成比 44.2%





建設用資機材の製造・販売事業





2019年3月期実績

(単位:百万円)

(売上) (

(営業利益)

+917

+179

(+10.6%)

(+32.1%)

- ・コンクリート子会社連結効果
- ・ケーブル製品・鉄鋼製品分野伸長

2020年3月期予想

(売上)

(営業利益)

+882

+136

(+9.1%)

(+18.4%)

- ・増大する災害対策やインフラ更新需要、 海外大型案件に確実に対応
- ・製販・グループ各社等 組織連携強化 + 案件採算向上で収益力を強化

建築用資材の製造・販売事業





2019年3月期実績

(単位:百万円)

(売上)

(営業利益)

+1,172

 $\Delta 134$

(+13.4%)

 $(\Delta 31.6\%)$

- ・旺盛な公共・民間建築需要に積極対応
- ・建築鉄骨分野で大型工事案件の集中による追加外注費・経費が発生、利益率悪化

2020年3月期予想

(売上)

(営業利益)

 $\triangle 602$

+103

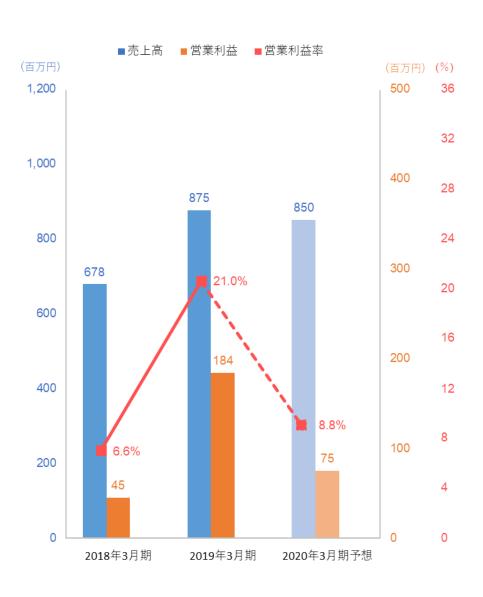
 $(\Delta 6.0\%)$

(+35.3%)

- ・東京オリンピック関連施設等旺盛な需要に 引続き対応
- ・鉄骨工事分野は利益重視で選別受注

建設コンサルタント事業





2019年3月期実績

(単位:百万円)

(売上) (営業利益)十196 +138(+29.0%) (+302.2%)

- ・強味のあるアフリカ・フランス語圏、道路・橋梁分野で順調に売上伸長
- 利益率が比較的高い設計業務案件が完工し 大幅増益

2020年3月期予想

(売上) (営業利益)△25 △109(△2.8%) (△59.2%)

- ・強味を活かした安定した事業運営に加え、 今後の柱となる新規分野開拓も志向
- ・利益率の高い案件の完工が予定されていないため減益(ベース増益傾向は維持)

補修•補強工事業





2019年3月期実績

(単位:百万円)

(売上) (営業利益)

 $\triangle 71 \qquad \triangle 20$

 $(\triangle 3.4\%) \qquad (\triangle 8.0\%)$

- ・水力発電所の導水トンネル等の大型工事や 国交省・NEXCOの元請案件等受注は好調
- 一部大型工事の翌期繰越で減収減益

2020年3月期予想

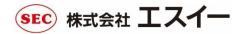
(売上) (営業利益)

+134 $\triangle 22$

(+6.5%) $(\triangle 9.3\%)$

- ・引続き旺盛な需要と強味を活かした受注活動 により受注増および増収を予想
- ・大型案件・元請案件による要員の逼迫に 営業・工事・設計の緊密連携で対応、利益 極大化を目指す

16



補修·補強工事業

21億80百万円 構成比 9.6%

建設用資機材の製造・販売事業

104億76百万円 構成比 45.9%

建設コンサルタント事業

8億50百万円 構成比 3.7%

グループ合計

売上高 228億円

経常利益 11億50百万円

2020年3月期予測

建築用資材の製造・販売事業

92億94百万円 構成比 40.8% III. エスイーグループの今後の戦略

短期(継続

・今年度、公共事業関連予算は、前年度比で微増

- ・熟練工の高齢化と若手入職者の減少(求人は急増):人材不足、労務費高騰→建設分野の就労者は、1992年の約750万人から2010年には450万人へ減少
- ・政府建設投資は、前年度を上回る水準(6.5%増)
- ・2020年東京オリンピックに向けた首都圏の民間建設投資の増加と大都市への集中 投資による地方投資の減少(特に東北地方)
- •インバウンド政策による観光客増加に伴う宿泊施設の建設

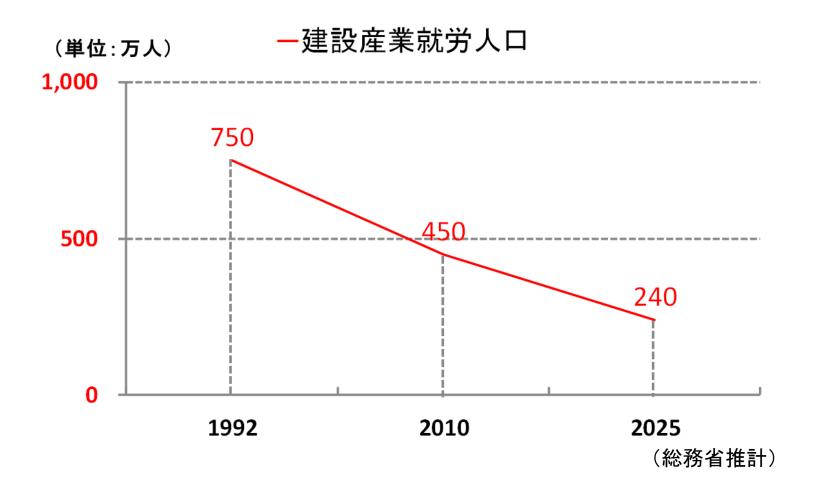
中・長

期

- ・1970年代に整備された橋梁、トンネル、道路等の更新時期到来: 老朽化対策
- ・2020年東京オリンピック後の政府建設投資・民間建設投資の不透明感
- ・三大都市圏における設備投資、リニューアル(ビル・施設・病院などの建替え需要)
- ・国債発行残高の増加:国や地方自治体の財政圧迫 →2023年度末公債残高約1,014兆円見込み(財務省発表より) しかし、個人金融資産も900兆円強ある
- ・少子高齢化と労働人口の減少:国内市場の縮小傾向
- ・公共事業関連予算の逓減と社会保障費の増大



●建設産業就労人口の推移



エスイーグループの戦略



- ① 緊急性の高い課題への対応: 既存事業の安定成長/成長事業の拡大
 - ・社会インフラの老朽化対策、効率的な維持管理・更新
 - ・地震や異常気象などに対する防災・減災
- ② 中長期的な課題への対応:3つの成長戦略
 - 1. 公共事業への対策(防災・減災、国土強靭化のための3か年緊急対策:7.2兆円)
 - → 民間需要の拡大とM&Aによる新規事業
 - ●ESCONの活用とコンクリート二次製品(A&Kホンシュウ)
 - 2. 社会インフラ長寿命化政策の要請(耐久性の目標100年)
 - → ●省力化、省人化、工期短縮を可能にするESCONコンクリートの必要性 (受圧板、床版他のプレキャスト化の拡充と協会メンバーへの材料販売 の促進)
 - ●国土交通省九州地方整備局と熊本県での自動車道橋梁への応用
 - 3. 人口減少(少子高齢化)や地方過疎化による税収の減少と、社会保障費の増大
 - → 海外市場への展開 × PPP(公民連携)の推進

新規事業の 創造

成長事業の 拡大

既存事業の 安定成長

エスイーグループでは、既存事業の安定成長・成長事業の拡大と さらなる発展のため、3つの成長戦略に挑戦



既存事業の 安定成長

- ・建設用資機材の製造・販売事業 (エスイー、A&Kホンシュウ、エスイー鉄建)
- ・建築用資材の製造・販売事業 (A&Kホンシュウ、エスイー鉄建)

建設用資機材の製造・販売事業(エスイー、A&Kホンシュウ、エスイー鉄建)

- アンカー工法の応用分野拡大:砂防堰堤、海岸堤防、嵩上げ
- 土木分野における耐震金物の受注拡大
- インフラの大規模更新・補修補強事業の獲得

建築用資材の製造販売・事業(A&Kホンシュウ、エスイー鉄建)

- 首都圏を中心とした民間住宅/非住宅投資の、安定的な建設需要取込
- 東北地方における復興再生需要の取込
- 鉄骨・梁加工製品等の鉄骨工事(Mグレード、Hグレード)



成長事業の 拡大

- 建設コンサルタント事業による国際化:アフリカ、東南アジア、ユーラシア(アンジェロセック、INGEROP、VJEC)
- ・急成長市場である補修・補強工事業 (エスイーリペア、ランドプラン)

建設コンサルタント事業(アンジェロセック)

- JICA技術協力プロジェクト ⇒ 相手国政府職員の能力向上
- JICAプロジェクトにおいて中堅・若手技術者がプロジェクトの総括、副総括として参画
- 提案能力/事業推進力の向上による受注競争力の強化
- 仏アンジェロップ社、ベトナムVJECによる技術力向上とさらなる国際化推進

補修・補強工事業(エスイーリペア、ランドプラン)

- ESCONとエスイーリペアの新たな融合による独自工法の開発と提案
- 営業力強化、安定顧客層の形成による受注力の向上
- 施工力の強化と施工品質の向上
- 事業エリアの拡大とエンジニアの積極的採用



新規事業の 創造

- ・戦略的M&Aの推進
- ・超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の事業拡大とマーケティング (ESCON協会活動、国交省九州地整、熊本県での自動車道橋梁、NEXCO床版取替え他)
- ・海外事業展開とPPP(公民連携)
- ・新しいエネルギー(CO2、放射線の発生しないエネルギー発電の基礎的研究開発の 成功、実用化研究開発中)

戦略的M&Aの推進

● 業際分野におけるM&Aを通じた、経営基盤の強化/事業拡大/スピードアップ

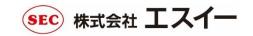
超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の事業拡大とマーケティング

- 製品化ならびに製品ラインナップの拡充を推進中。ESCON協会37社と共同でマーケティング
- ESCON協会による新分野・新応用技術の開発(土木、建築、一般分野)
- 東北地方を拠点とするA&Kホンシュウとのコラボレーション

海外事業展開とPPP(公民連携)

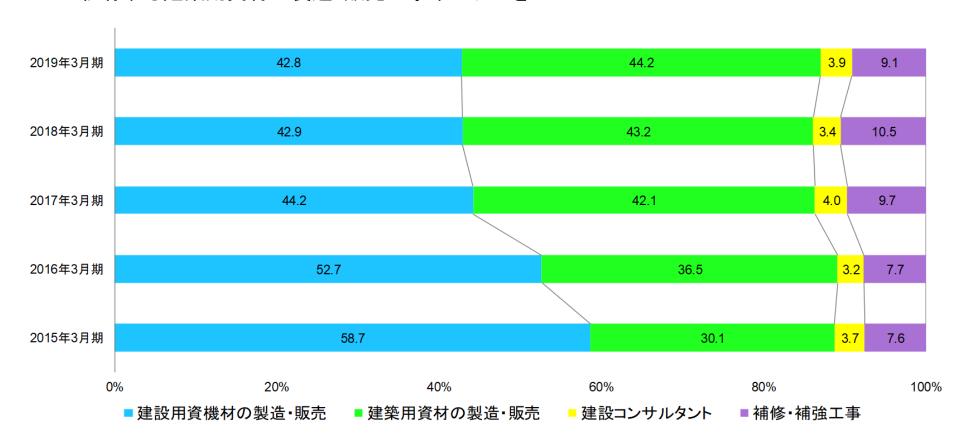
- 現在展開しているベトナムへの進出日本企業と現地企業との協業化、建設分野の現地化 (VJECの分野拡大)
- ベトナムに加え、近隣諸国へとエリアを拡大
- 奈良県広陵町 地方創生プロジェクトへの取り組み

【新規事業の創造】 戦略的M&Aの推進



●M&Aによるセグメント別売上構成比の推移

公共事業費の増減に業績が左右される建設用資機材の製造・販売から、民間需要に 依存する建築用資材の製造・販売へ事業モデルをシフト



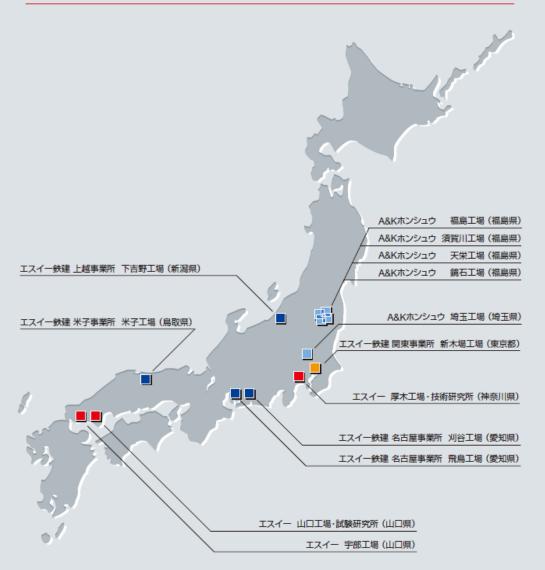


SECグループの工場配置図

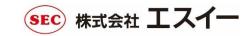
戦略的M&Aの結果



Factory and Laboratory of SE Group



戦略的M&Aの推進



●M&Aの今後の戦略

く実績>

- 2009年~2017年 年間 約1件 成立
- 買収した企業の売上予測(2019年度)

A&Kホンシュウ 今期82.5億円

エスイー鉄建 今期42.5億円

エスイーリペア 今期22.0億円(中期25億円目標)

<中期的な目標>

- 1) 今後も積極的な事業拡大を促進
- 2) ㈱ホンシュウのような、㈱エスイーの販売力を活用できる案件を優先(ESCONとの相乗効果)

<対象>

現在の4つのセグメントの範囲を中心として、グループ各社の規模の拡大を図る

- 1) 建設用資機材の製造・販売
- 2) 建築用資材の製造・販売
- 3) 補修•補強工事
- 4) 建設コンサルタント
- 5) ESCON事業と相乗効果

<M&A後の運用>

グループ各社を有機的に結合させる

人材交流、規模のメリット、Place Policy(マーケティング戦略)のメリット、技術的シナジー、 経営ガバナンスの容易さを追求

【新規事業の創造】

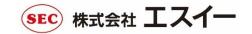
技術開発型企業への取り組み

- ◆ 超高強度合成繊維補強コンクリート「ESCON」の受圧板、橋梁用床版を中心とした拡販
 - →国土交通省九州地方整備局 高橋と、熊本県(スパン35~38m)の 自動車道橋梁の設計・施工による建設分野へのインパクト
- ◆ 新エネルギーの開発と発電
 - →CO₂、放射線の発生しないエネルギー発電の基礎的研究開発の成功、実用化研究開発の継続
- ◆ 既存製品の新用途開発による市場規模の拡大
- ◆ エスイーグループの技術力を結集し、「新材料」、「新工法」、「新設計法」 の創出と事業化(ESCONの応用分野の拡大)

【ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート)の 開発と応用分野】

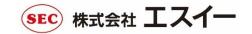
- 1. ESCON開発の理由
- 2. ESCONの特長
- 3. ESCONの分類
- 4. ESCONの応用分野

1. ESCONの開発の理由



- ① 超高齢化社会と若年層の減少(2016年、新生児人口は100万人を切った)。
- ② 2025年には平均年齢が51歳になると想定。世界最高齢社会。
- ③ 建設就労人口の激減(1992年に750万人、2025年には240万人と 予想)。
- ④ 建設産業での革新的新材料·新工法·新設計法の開発が必要(新しい価値の創造)。
- ⑤ 深刻な人手不足と外国人の雇用問題(人件費の上昇、建設産業で人件費・ 歩掛の改善がさらに進むだろう)。

1. ESCONの開発の理由



- ⑥ 高齢化社会では、税収が減り、消費も減少へと向かうだろう。
- ⑦ また、18歳以下の人口減少で、18年後には18歳人口は100万人を切る。
- ⑧ したがって、社会インフラも100年以上耐久性のあるものを作る必要があり、補修・補強も一度補修したら100年以上耐えられるものを作る必要がある。
- ⑨ 人手不足、施工のスピード化、品質の関係で、これからはプレキャストの時代。
- ⑩ ESCONは従来のPC橋梁等と比較して1/3の人手、工期は1/2に 短縮できる。
- ① ESCONはまさしくこの時代要請に応える画期的な工法・技術である。

2. ESCONの特長

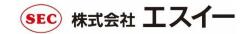


超高強度 ⇒ 圧縮強度150N/mmが以上、曲げ引張強度20N/mmが以上。 部材の薄型化、軽量化が可能。

高耐久性 ⇒ 100年以上の耐久性

高流動性 ⇒ フロー値300mm以上で材料分離なくバイブレーター締固めが不要のため、狭い曲面などへの打設が容易。 現場打ち、ポンプ圧送打設が可能。

3. ESCONの分類



ESCON I : プレキャスト材、工場製品

② ESCONⅡ : 現場打ちESCON

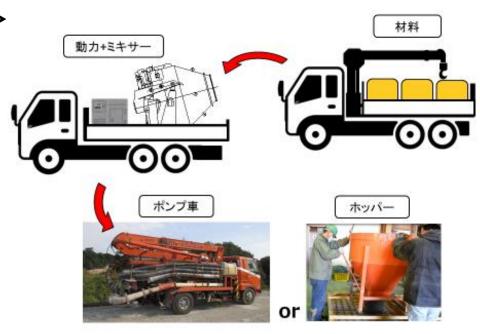
現場でミキシング、打設(ポンプ圧送100m)可能

いつでも、どこでも、誰でも簡単に(生コン用ミキサー車

使用可)

減圧処理、蒸気養生不要でσ_{ca}=150N/mm^{*}

<現場打設用設備>



3. ESCONの分類



③ ESCONⅢ: 補修材

左官仕上げ可能ESCON: 完成(10%傾斜スラブ等適用可)

RC梁の断面欠損補修など

吹付け用ESCON: 山の斜面保護他、応用分野拡大

④ 着色ESCON: ESCONの建築壁材、柱材化粧として活用 (すでに応用化)



着色ESCONの発色例(着色剤添加量5%~15%)



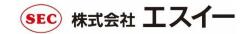
着色ESCONの発色例(着色剤添加量15%)



- ① <u>橋梁分野</u>
 - 1) 道路橋床版(NEXCO他、高速道路会社他)
 - 2) 步道橋床版
 - 3)RC橋、PC橋、RC橋脚等
- ② 橋梁付属物分野
 - 1)壁高欄
 - 2) 埋設型ジョイント(フラットパネル)
 - 3)排水桝
- ③ 道路・法面分野
 - 1)受圧板
 - 2)補強土工法用パネル(ESCONパネル)
 - 3)ボックス、カルバート
 - 4)法面吹付け



- ④ 河川·砂防分野
 - 1)河川施設摩耗防止用パネル
 - 2)ダム施設摩耗防止用パネル
- ⑤ 海洋•港湾分野
 - 1)桟橋用スラブ
 - 2) 漁港用グレーチング
 - 3) 岸壁・護岸耐震補強アンカー用カバープレート
- ⑥ トンネル分野
 - 1)トンネル・セグメント
 - 2)内面吹付け



⑦ 鉄道施設分野

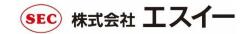
- 1)リニア・トンネル内壁式電線設備他
- 2) 枕木
- 3) 鉄道用高欄
- 4) ループコイル床版補強用パネル

⑧ 下水道分野

- 1)遠心成形ヒューム管
- 2) 遠心成形立孔

9 津波分野

- 1)津波避難用タワー
- 2)火山地域の避難用シェルター
- 3) 放射性廃棄物保存容器 (ESCON γ Nite)
- 4)ヘリポート



① 建築分野

- 1)カラーESCON(白、青、赤他): 建築物ファサード、柱化粧材他
- 2)立体駐車場スラブ
- 3)物流倉庫スラブ
- 4) 工場用スラブ(プレキャスト、場所打ち、傾斜床)

一般工事分野

- 1)埋設型枠
- 2)覆工板

⑫ 補修・補強分野

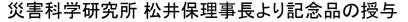
- 1)鋼床版の疲労亀裂防止用補強材
- 2)RC床版上面補修材
- 3) 床版、梁の吹付け補修工法
- 4)RC・PC主桁の剥離部位補強工法
- 5)RC橋脚耐震補強

①「ESCONスラブ」の開発研究 優秀研究賞受賞

2017年10月18日

「超高強度コンクリートと高強度鉄筋を用いた道路橋床版の開発研究」と題した 災害科学研究所との連携研究が、(一財)災害科学研究所 優秀研究賞を 受賞いたしました。







【ESCONスラブのイメージ図】

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

SEC 株式会社 エスイー

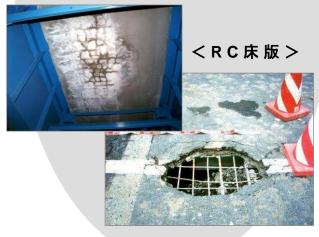
● コンクリート構造物の劣化原因





道路橋の経年疲労

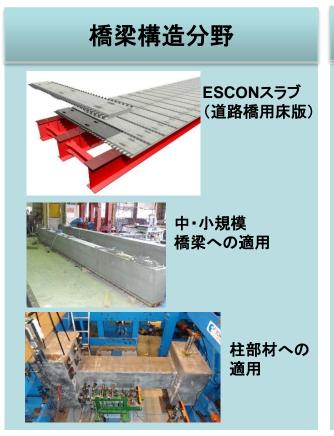




②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング



● ESCON:製品化ならびに製品ラインナップ拡充を推進





上記の他、海洋構造物や建築分野、放射線遮断容器等、応用分野への用途拡大を検討 → マーケティング(拡販)と製品ラインナップ拡充を開始

採用実績事例



道路橋步道部床版(梅崎橋)



ESCONパネル(ロックボルト用受圧板)



◇石川県金沢市(兼六園法面)他現場への納入実績◇NETIS登録No. QS-160021-A



兼六園法面納入状況



ESCON受圧板(グラウンドアンカー用)

【特徴】

従来のコンクリート製受圧板に対して1/2~1/3程度軽量となるアンカー用受圧板。 鋼製受圧板の使用が控えられている地域・発注者をメインターゲットとします。 ◇NETIS登録 No. QS-170016-A

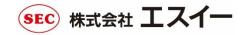






ESCON受圧板設置状況(近接)

ESCONを用いた道路橋の具体化



・学識経験者、国土交通省、ESCON協会を交えて「検証委員会」を 発足させ、実用化に向けて審議中

<委員会名>

超高強度合成繊維コンクリートの実用可能性に向けた検証委員会

<座長>

九州大学 園田佳巨教授

<場所>

国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所国道208号線(福岡県柳川市)

<内容>

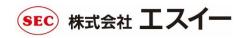
自動車道 橋梁(高橋)

1935年施工。老朽化した橋梁の架け替え

<現状>

- 1) 概略設計中
- 2) 今年詳細設計、その後工事着工予定

ESCON γ Nite (特許権取得、原子力発電所廃炉と放射能汚染物質への対応)



●ESCON γ Nite ® (ガンマ線遮蔽材料)を開発中

γ Nite (ガンマナイト)とは (特許出願中 公開情報)

γNiteは、ガンマ線を遮蔽する厚さ8cmのESCONを用いた合成コンクリート材です。 ガンマ線の遮蔽材料として代表的な鉛は高い遮蔽能力を有しますが、価格が高く、使用する 上では、環境汚染や鉛中毒などの深刻な健康被害に留意する必要があります。 また、鉄は鉛に次いで遮蔽能力が高いですが、腐食に対する懸念があります。 ESCONγNiteは、鉄に近い遮蔽能力を有し、耐久性の高い超高強度合成繊維補強コンクリート を使用しており遮蔽能力、耐久性、価格等のバランスが取れた優れた遮蔽材料といえます。

◇ESCON γ Niteの応用例

$ESCON \gamma$ Nite BOX(放射性廃棄物保管容器)

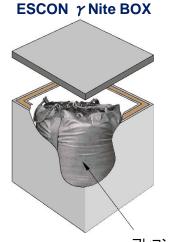
 γ Niteを用いた放射性遮蔽容器 γ Nite BOXは、普通コンクリート製の容器と比べ、その厚みを薄くすることができます。

 γ Nite BOXは、ESCONを使用しているため、水に対する耐浸透性や耐凍結融解性、耐薬品性に優れ廃棄物の長期保存に適します。

ESCON Y Nite BOX 放射能汚染物質の貯蔵に最適

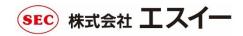
廃炉になった原子力発電所から発生する放射能汚染物質を長期間安全に 貯蔵できます。

放射能汚染物質の中間貯蔵箱



フレコンバッグ

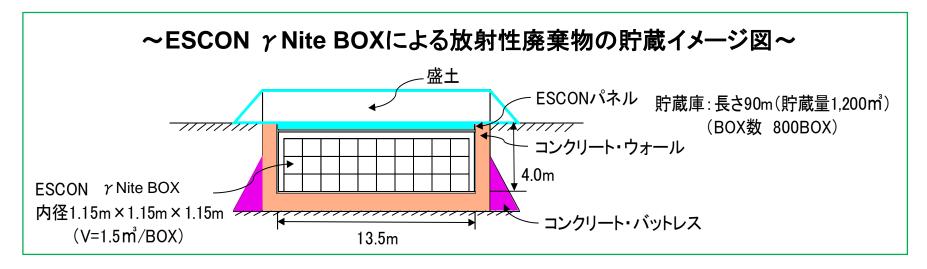
ESCON γ Nite (特許権取得、原子力発電所廃炉と放射能汚染物質への対応)



~ESCON γ Nite BOX の試供品~







【新規事業の創造】 海外事業展開



●アンジェロセックの新たな事業展開

(株)アンジェロセックは、アフリカ、アジアを中心に積極的な海外事業を展開しています。 JICAや相手国政府からの受注物件の確保ならびに継続物件の消化活動を行って います。

<今年度 完工したプロジェクト>

「東ティモール国 道路維持管理水準向上プロジェクト」

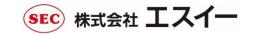
「タンザニア国 第二次ニューバガモヨ道路拡幅計画詳細設計」

「コートジボワール国 アビジャン三交差点建設事業準備調査」等





東ティモールコモロ川の「上流橋」及び「アクセス道路」が完成。Ponte HINODE(日の出橋)と命名。



コートジボワール国 アビジャン三交差点建設事業

(株)アンジェロセックによるアフリカ・フランス語圏でのプロジェクト

- ◆ コートジボワール国の経済中心都市アビジャンを東西に横断するミッテラン通り に位置する3つの交差点の改良プロジェクト
- ◆ STEP適用案件として、工事費の30%を日本国内から調達する予定
- ◆ 西アフリカ仏語圏において、フランス式の契約約款(CCAG)を適用する有償橋 梁案件プロジェクトとして、JICAおよび国交省の注目も高い
- ◆ JICAもこれを機にフランス式契約約款の勉強を開始し、本プロジェクトを西アフリカ仏語圏でのモデル事業ととらえている

◆ 三交差高架橋の概要

警察学校前交差点: 5径間連続鋼箱桁橋 橋長170m リビエラ3交差点: 6径間連続鋼箱桁橋 橋長221m パルメリ交差点: 6径間連続鋼箱桁橋 橋長266m

(STEP適用のため、日本から鋼橋を輸出)

有効幅員:20.6mの6車線



●ベトナム・バクダン橋完成、2018年9月1日 開通式開催

- ◆ 2012年に(株)アンジェロセックが提案した3主塔、5径間連続PC斜張橋(スパン240m)
- ◆ アプローチを含む全橋長5km、幅員6車線27m
- ◆ 総工費: 約270億円(日本の70%程度)
- ◆ ㈱エスイーを中心とした日越企業8社によるBOT事業
- ◆ 日越外交樹立45周年記念
- ◆ (株)エスイー、(株)アンジェロセック技術提案とBOT投資プロジェクト
- 注) 1. 航空制限のため、主塔高の制限あり
 - 2. ハノイ、ハイフォン、ハロンの3都市のH型主塔







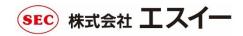
- ●東アフリカ初のPC斜張橋 ナイル架橋、完工
- ◆ 日本政府の有償資金協力によるODAプロジェクト
- ◆ ウガンダ共和国ジンジャ県のナイル川源流付近におけるアフリカ全土で最大級の PC斜張橋
- ◆ 橋長525m(135m+290m+100m)
- ◆ SEEE/FUT-H型斜材ケーブルが採用、㈱エスイーから 資材供給、架設機材リース、スーパーバイザー派遣、 エンジニアリングを提供
- ◆ 施工: 錢高組·現代建設JV



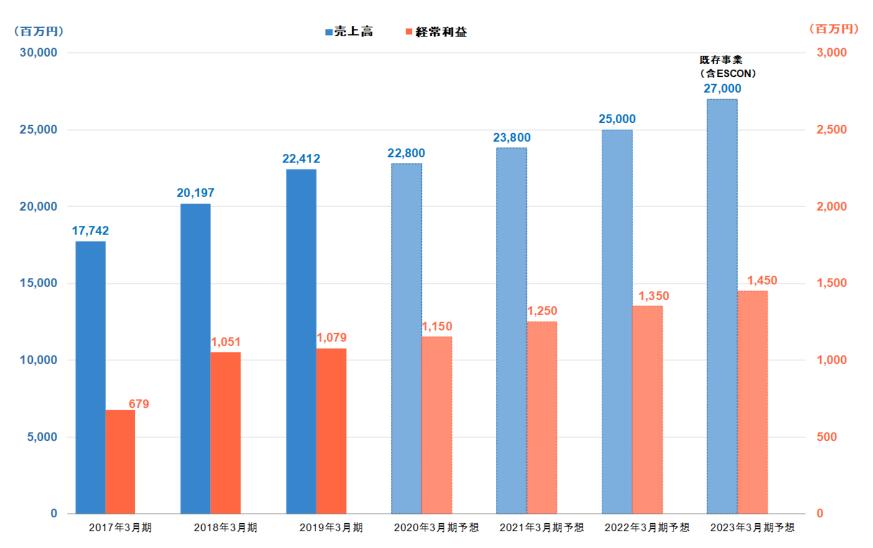


エスイーグループ売上/利益目標

エスイーグループ売上/利益目標



●中期300億円化戦略



将来見通しに関する記述についての詳細[ご参考]

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関係する見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがいまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

International Engineering Maker

